

安高文書の世界
－『安高団兵衛の記録簿』の成果と可能性について－

2017年1月21日
筑紫女学園大学 時里奉明

【構成】

◎本の刊行まで

- ・1981年 福岡県地域史研究所設置
- ・1993年 地域史研究所、遠賀郡の水巻町及び芦屋町の史料調査を行う
この時安高文書を調査、地域史研究所が預かり、史料整理を行う
時) 1996年から99年まで地域史研究所嘱託、安高文書の管理を担当
- ・2003年ごろ 史料整理がほぼ終了、仮目録が作成される
1万2000点以上の史料群
- ・2007年 地域史研究所主催、企画展「史料は語る 福岡県の近世～近代－福岡県史編さん25年の歩み－」を開催、時) 安高文書を展示
時) 「安高団兵衛物語」を『西日本文化』に掲載開始、2012年まで
- ・2011年 地域史研究所閉所、史料は九州歴史資料館へ移管
- ・2016年 時) 『安高団兵衛の記録簿』を刊行

◎「安高団兵衛物語」（『西日本文化』掲載分）に書いたこと

①「時間」について

1年に508日働く、睡眠は5時間40分、二宮尊徳をモデル、時計と競争、芦屋時間の打破、「時は命なり」など

②芦屋飛行場/防風林伐採/被害補償について

「芦屋飛行場地区防風林伐採被害者組合」の幹部として活動（1952年-61年）

※団兵衛の記録『農業作物別耕作明細表』が被害補償獲得に貢献する

③栗屋排水路の建設について

芦屋飛行場建設による浸水被害、被害補償から排水路新設へ（1953年-59年）

◎『安高団兵衛の記録簿』に書いたこと

〈記録魔〉団兵衛の記録が、住民を救うことになった データベースの活用

・団兵衛の生涯（表1）

安高文書、私家版『私の日常信条とし実行しつつある事の一部』（1967年）の活用
記録の作成を年代順に整理、記録作成のプロセス

徴兵検査・兵営生活、家族と生活、思想、戦前と戦後（農業、記録、健康など）

◎『安高団兵衛の記録簿』を刊行して

①団兵衛本人

- ・日本の明治・大正・昭和を理解する
50歳まで模範生、そのあとは？
兵営生活の3年間は、人格形成の原点
戦前と戦後→敗戦についてどう対応したのか？
- ・近代人の勤労倫理 団兵衛は「パーリア力作型」？
- ・なぜ記録を作成したのか？
文字、写真

②安高文書そのもの

- ・被害補償運動の全容
防風林伐採被害補償運動・・・「特損法」の制定、芦屋飛行場の変遷など
酪農被害補償運動は手付かず

※芦屋町の戦後史、基地のある町の歴史

- ・農業史、農業経営史、生活史、精神史、地域史など
人力による農作業、下肥の利用
農業経営に記録を活用する、先駆的な試み？
『金銭出納簿』、『就寝時間入浴回数統計簿』などの分析
団兵衛が関係した団体や組織の数々→大統社、県社神武天皇社奉賛会、芦屋町警防団、
芦屋町先賢顕彰会、栗屋正交会、農村特志隊栗屋組・・・
ほかにも尿尿処理など

安高団兵衛の記録簿－「時間」と競争したある農民の一生

はじめに

第一章 〈記録魔〉団兵衛について

団兵衛との出会い/安高文書とは？/安高家の系譜/安高家の農業経営

第二章 明治・大正期の団兵衛－誕生から 30 歳まで

日記を始める/徴兵検査にのぞむ/入営に備える/入営する/兵営の日課/兵営の過ごし方/
下士志願を勧められる/入院する/上等兵になる/補充兵を教育する/伍長勤務上等兵に
なる/退営する/新たな記録を始める/結婚する

第三章 昭和戦前期の団兵衛－30 歳から 50 歳まで

1 記録類の数々

記録類の手引き書/十六種類の記録/私家版の紹介

2 「時間」の観念

一年に五〇八日働く？/睡眠は五時間四十分/目指すは二宮尊徳/時計と競争する/
芦屋時間を改める/「時は命なり」

3 家族と生活

家族の病と死/子供の教育/弟二人の分家/金銭観/酒と煙草

4 農業観と国家観

農民の使命/国民の責務/天皇崇拜者として/敗戦を迎えて

第四章 昭和戦後期の団兵衛－50 歳から死去まで

1 記録類の行方

記録類の戦後/戦前で終わった記録/戦後まで続いた記録/戦後から開始した記録/
終戦直後の団兵衛

2 記録が評価される

注目を集めた戦前の記録/神功皇后由来の三里松原/芦屋飛行場の建設/被害者組合の結成
政府認定を覆した明細表/防風林伐採被害の実態/陳情団、中村寅太衆議院議員と会う/
団兵衛の記録は「世界一」/被害もたらす風向の統計

3 記録が住民を救う

陳情団、四回目の上京/「ハダカ」になった芦屋の農地/筵旗立て決起！/時代の記録/
勝ち取った補償金/被害補償の行方/横領疑惑/三原朝雄

4 団兵衛の遺したもの

被害者組合の団兵衛/あと二つの被害補償/「時間」を追いかけて

あとがき

※網掛けは『西日本文化』掲載分の加除修正、あとは書き下ろし

表1 安高団兵衛略年譜

| 西暦 | 元号 | 月 | 歳 | 事項 |
|------|------|----|----|---|
| 1896 | 明治29 | 3 | 0 | 安高家の長男として生まれる |
| 1906 | 39 | 3 | 10 | 芦屋尋常小学校(4カ年)卒業 |
| 1910 | 43 | 4 | 14 | 芦屋尋常高等科(4カ年)卒業。以後、農業に従事 |
| 1916 | 大正5 | 12 | 20 | 小倉北方輜重兵第12大隊第1中隊入隊 |
| 1919 | 8 | 11 | 23 | 陸軍現役除隊(退營)。善行証書及び下士適任証書授与。以後、農業に従事 |
| 1920 | 9 | 2 | 23 | 結婚 |
| 1925 | 14 | 3 | 28 | 大阪毎日新聞社より模範在郷軍人として表彰される |
| 1926 | 15 | 1 | 29 | 遠賀郡農会の指定農家になる |
| 1927 | 昭和2 | 4 | 31 | 粟屋正交会(軍人会員と青年会員で結成した団体)の理事兼会計に就任する |
| 1929 | 4 | 1 | 32 | 粟屋区区长代理に当選する |
| 1931 | 6 | 3 | 35 | 帝国在郷軍人会声屋町分会副会長に就任する(6カ年、兵役任期满了まで) |
| 1933 | 8 | 4 | 37 | 福岡県知事より優良農家事例として表彰される |
| 1933 | 8 | 8 | 37 | 福岡県知事より、点呼執行官より賞賛される(愛児の死にもかかわらず、任務を遂行により) |
| 1934 | 9 | 10 | 38 | 粟屋区長に当選する |
| 1935 | 10 | 11 | 39 | 芦屋町会議員に当選する(4カ年)。以後立候補せず |
| 1939 | 14 | 2 | 42 | 県社神武天皇社奉賛会を發起。理事に就任する |
| 1940 | 15 | | 43 | 芦屋町警防団本部附分団長に就任する |
| 1941 | 16 | 2 | 44 | 粟屋部落会長に就任する |
| 1942 | 17 | 5 | 46 | 芦屋町先賢顕彰会を發起、常任委員に就任する |
| 1942 | 17 | 11 | 46 | 農林大臣より食糧増産功労者として表彰される |
| 1943 | 18 | 1 | 46 | 高松宮より地方振興功労で表彰される |
| 1944 | 19 | 2 | 47 | 福岡県知事より模範農業者として表彰される |
| 1945 | 20 | 2 | 48 | 農商大臣より勤労顕功章を授与される |
| 1945 | 20 | 6 | 49 | 国民義勇隊副隊長・国民義勇隊戦闘隊長に就任する |
| 1952 | 27 | 7 | 56 | 芦屋飛行場地区防風林伐採被害者組合の実行理事兼書記に就任する。以後、防風林伐採被害補償、酪農爆音被害補償について活動する。また翌年から栗屋排水路の建設を進める |
| 1958 | 33 | 1 | 61 | 栗屋町水琴和歌会世話人に就任する |
| 1959 | 34 | 4 | 63 | 栗屋排水路完成、のちに記念碑を建てる(1967年2月) |
| 1959 | 34 | 9 | 63 | 芦屋飛行場地区酪農被害者組合副組合長に就任する |
| 1960 | 35 | | 64 | 芦屋カメラ倶楽部副会長に就任 |
| 1967 | 42 | 3 | 70 | 死去(享年70) |

出典：私家版、安高文書より作成。歳は満年齢。